

第2章 瑞穂市の概要

第2章 瑞穂市の概要

1. 瑞穂市の概況

瑞穂市は、濃尾平野の北西、岐阜市と大垣市に隣接した田園地帯に位置しています。名古屋からも近く、東京や大阪へも日帰りで往復できる交通至便の地域にあります。東に清流長良川、西に揖斐川の2大河川のほか、市内に犀川など16本の一級河川が流れる、水に恵まれる自然豊かな地域です。

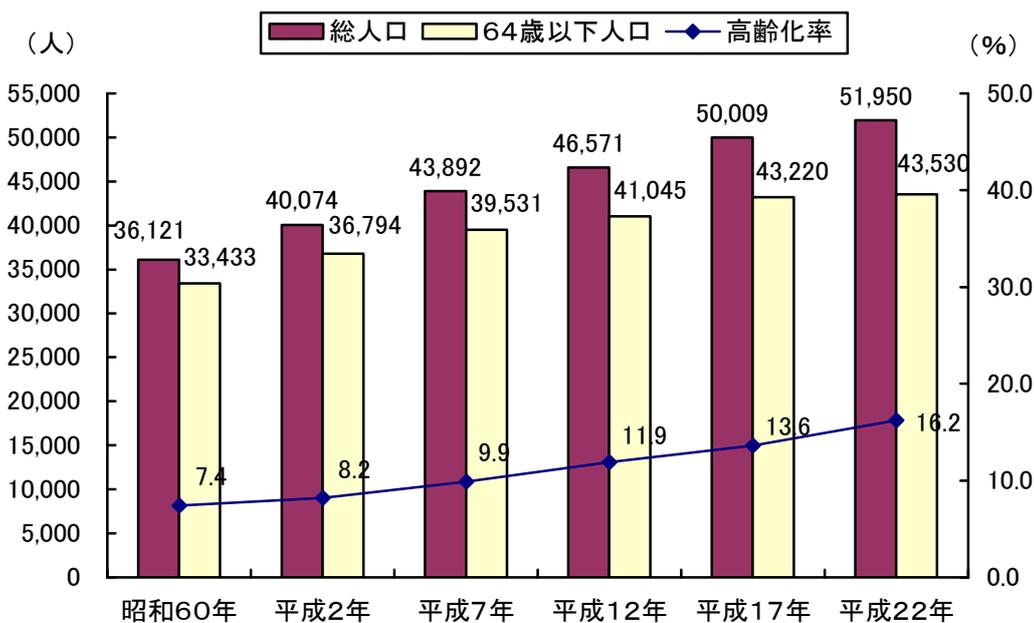
地形はおおむね平坦で、古来より豊富な水を活かした都市として発展してきました。平成15年5月に、水資源と交通に恵まれた町である穂積町と、富有柿などの農作物の実り豊かな町である巣南町の二町が合併し、瑞穂市が誕生しました。

合併から10年近くがたち、国道21号線やJR東海道本線によって、利便性の高い、拠点的な都市の一つとして日々発展しています。

2. 人口動態

瑞穂市の総人口は、毎年増加を続けています。高齢化率は増加していますが、64歳以下人口も年々増加してきています(図2-1)。また、高齢化率は県内で最も低く、若いまちといえます。(図2-2)

(図2-1) 総人口および高齢者人口等の推移



(資料：国勢調査)

第2章 瑞穂市の概要

(表2-1) 人口構成(県内市町村との比較)

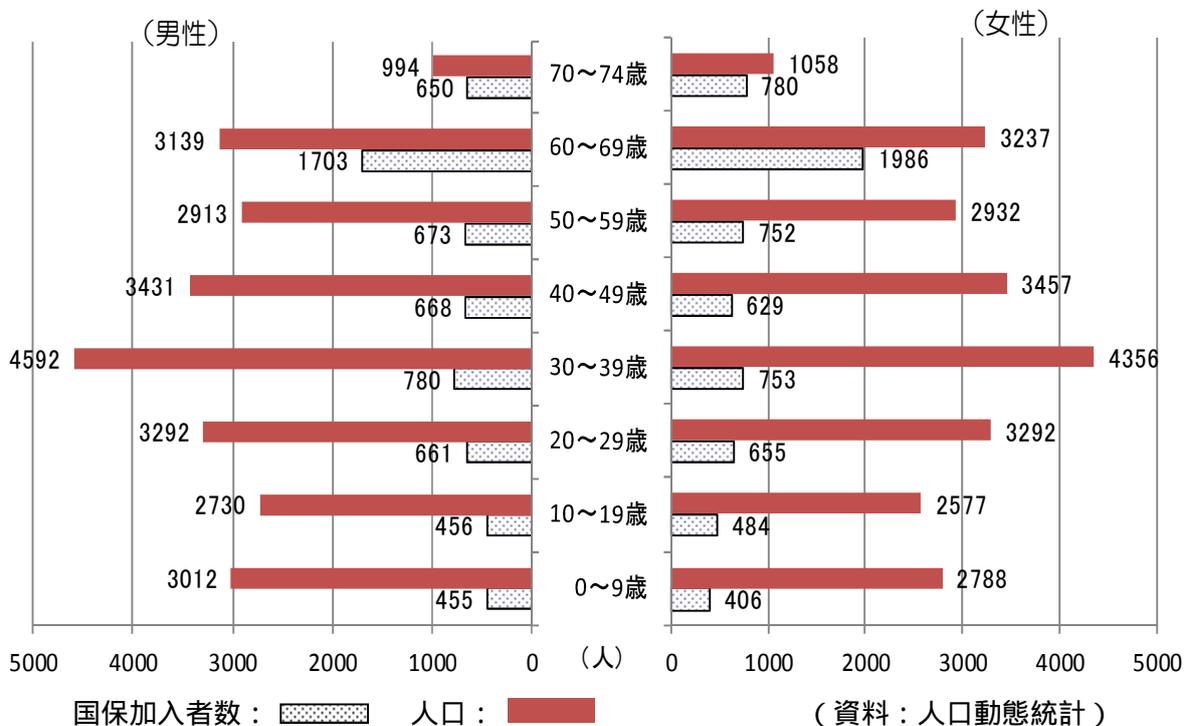
437人年齢不詳

H22.10.1 人口	51,950人					
	年少人口 (15歳未満)		生産年齢人口 (15~64歳)		高齢人口 (65歳以上)	
	8,463人		34,630人		8,420人	
	16.4%	上位2位	67.2%	上位2位	16.3%	最下位

(資料:国勢調査)

また、年齢階級別の総人口は(図2-2)のとおりです。20~30歳代の人口割合が高く、若いまちといえます。また、国民健康保険(以下「国保」という)加入者は男女とも60歳から増加しています。

(図2-2) 瑞穂市年齢階級別総人口(平成22年10月1日現在)



(表2-2) 瑞穂市の全死亡者数に占める「40~64歳」の死亡割合

<男女計>	平成19年	平成20年	平成21年
瑞穂市	17.7	14.3	13.8
岐阜保健所管内	11.5	12.0	11.9
岐阜県	9.5	9.1	9.2

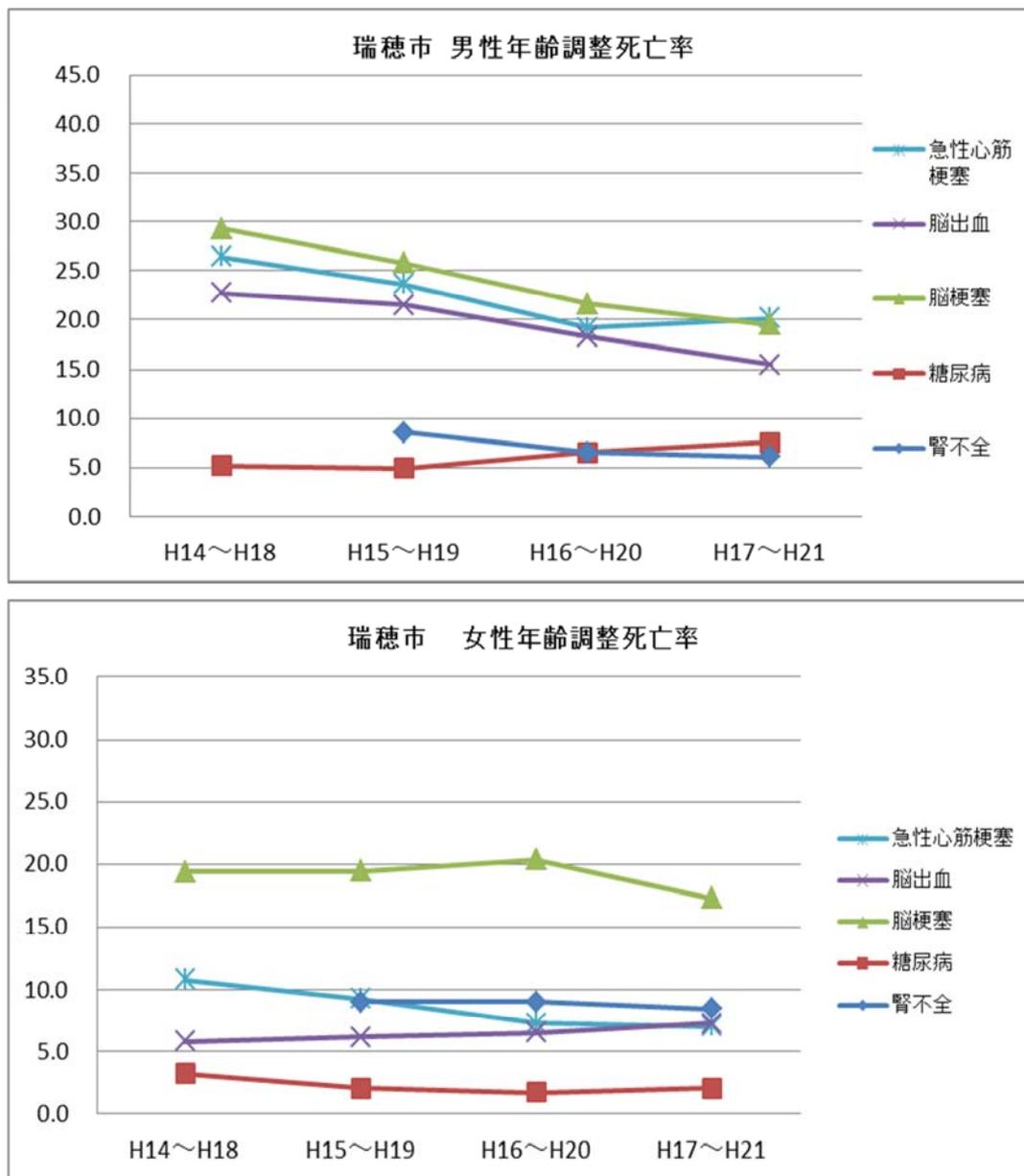
(表2-2)は、「がん」「脳血管疾患」「心疾患」「糖尿病」「自殺」の40~64歳の死亡者が、全死亡に占める割合で、瑞穂市と県平均との比較です。

(資料:岐阜県衛生年報、岐阜地域の公衆衛生2010)

瑞穂市の人口割合が高い生産年齢のうちの40~64歳の死亡者割合(表2-2)を見ると、県平均と比較すると3年間とも高い割合になっています。

第2章 瑞穂市の概要

(図2-3) 瑞穂市年齢調整死亡率(全年齢)



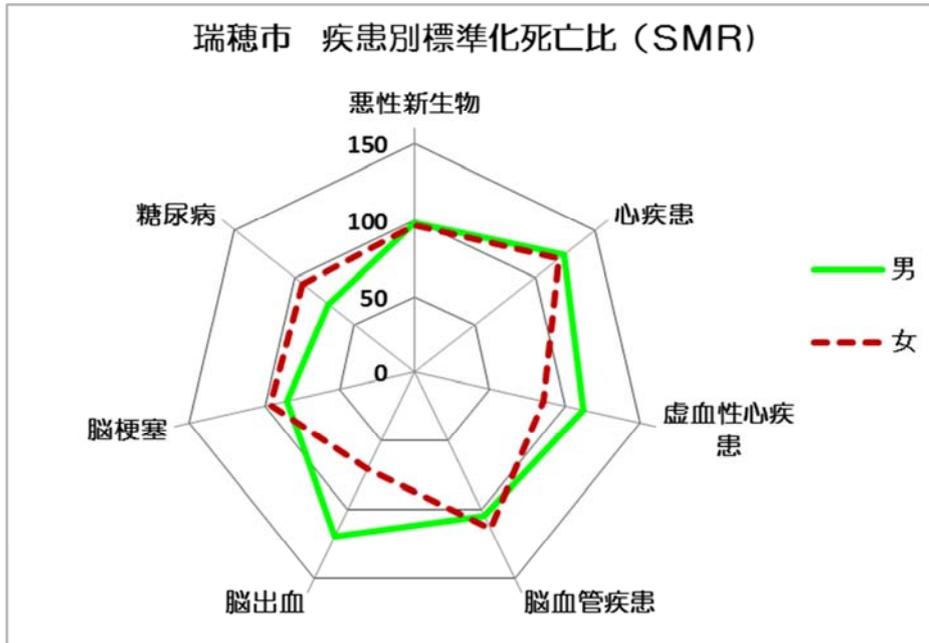
瑞穂市年齢調整死亡率¹(全年齢)(図2-3)では、男性の急性心筋梗塞、脳出血、脳梗塞は、年々減少していますが、急性心筋梗塞のみ最終の平成17~21年においては、平成16~20年に比較するとやや増加しています。糖尿病においては、平成15~19年より増加傾向にあります。

また女性は、急性心筋梗塞と脳梗塞は、減少傾向にあります。脳出血は微増傾向にあります。

1 年齢調整死亡率

基準となる人口の年齢構成を考慮して補正した死亡率で、年齢構成の著しく異なる群間の比較をできるようにしたものです。年齢調整死亡率 = {[基準人口(昭和60年モデル人口) 観察集団の各年齢(年齢階級)の死亡率 × 基準人口集団のその年齢(年齢階級)の人口]の各年齢(年齢階級)}の総和 / 基準人口集団の総人口(通例人口10万人当たりで表示)

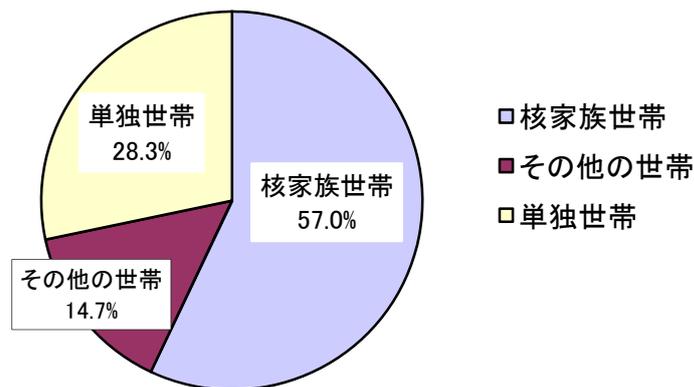
(図2-4)



(生活習慣病白書2007年版より H14~18データ)

瑞穂市の疾患別標準化死亡比(SMR)²(図2-4)をみると、男女ともに心疾患のSMRが高です。その他には男性は100を超えるものとして悪性新生物、脳出血、脳血管疾患、虚血性心疾患があり、女性は100を超えるものとして悪性新生物、脳血管疾患があります。

(図2-5) 家族構成割合



(資料：平成22年国勢調査)

家族構成割合(図2-5)を見ると、半数以上が核家族世帯であり、単独世帯を合わせると8割になります。

² 標準化死亡比 (SMR)

年齢や性別の構成が異なる集団の死亡率を比較する場合に用いられるもので、次の算式で求める。SMR = 観察集団(市)の現実の死亡率 ÷ {(基準となる人口集団(全国)の年齢別死亡率 × 観察集団(市)の年齢別人口)の総和} × 100
100を下回れば全国平均より低い死亡率を表している。

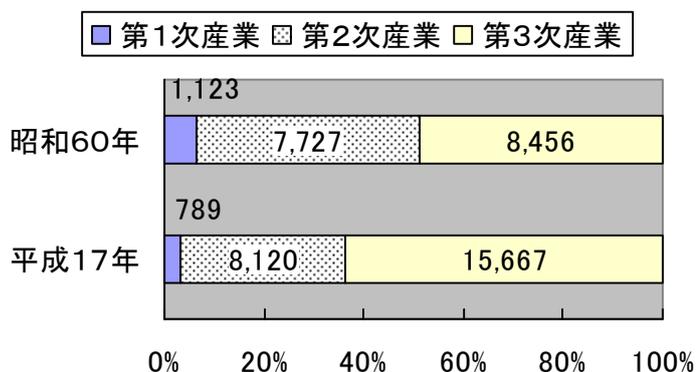
第2章 瑞穂市の概要

3. 産業・経済

第1次産業³が減少し、第3次産業が増加しており半数以上を占めます(図2-6)。平成17年の内訳を見ると、第1次産業では農業を営む人が多く、第2次産業では製造業が多く、また第3次産業ではサービス業や卸売・小売業・飲食店が多くなっており半数以上を占めています。

また、事業所の規模別状況を見ると卸・小売業・飲食業とサービス業が多く、35%を占めています。

(図2-6) 瑞穂市の産業の推移



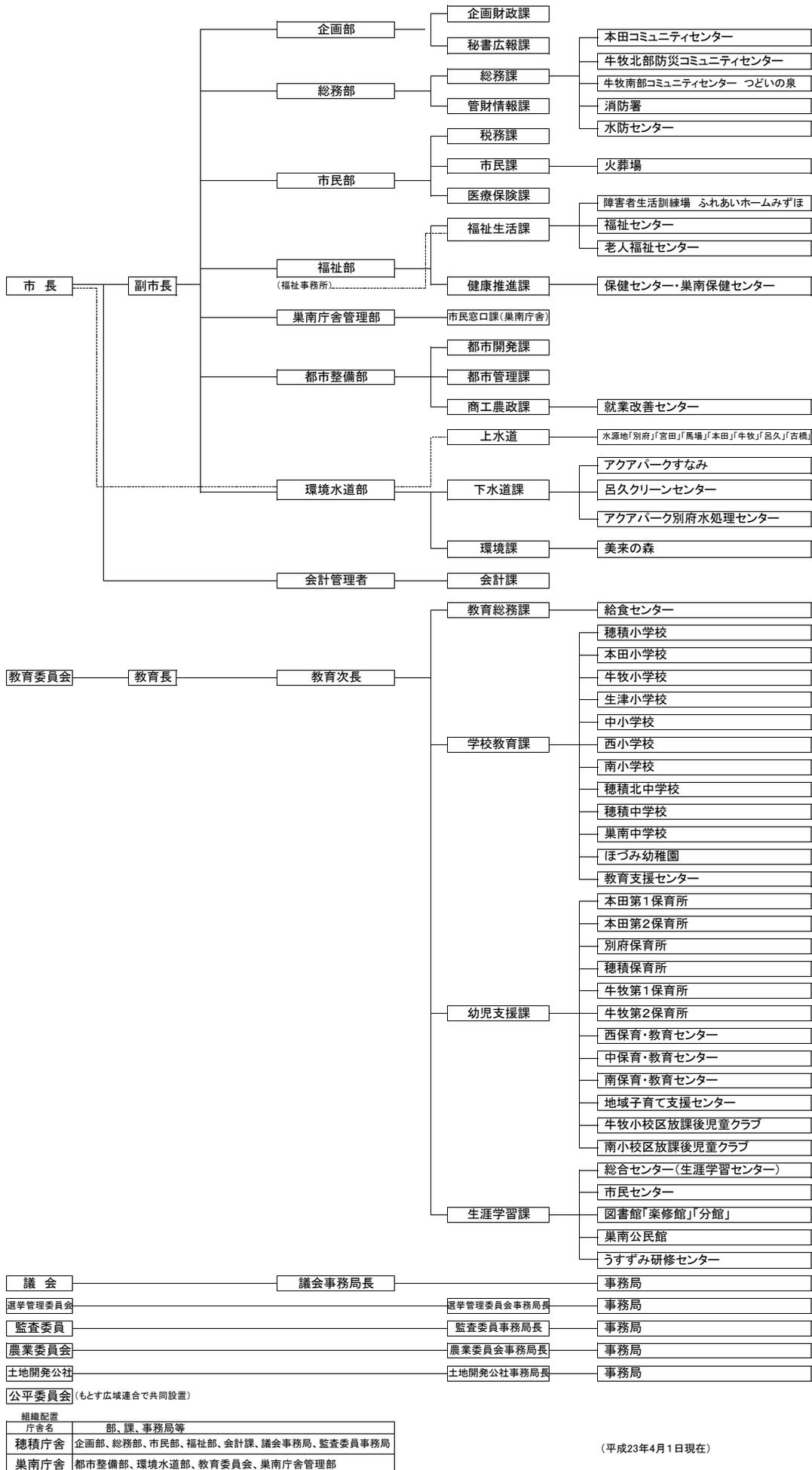
(資料：平成17年国勢調査)

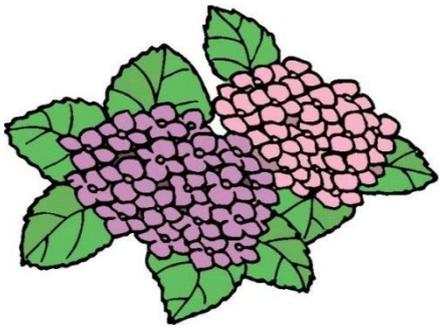
³ 産業大分類の区分

第1次産業：農業・林業・漁業

第2次産業：鉱業・採石業・砂利採取業、建設業、製造業

第3次産業：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業・郵便業、卸売業・小売業、金融業・保険業、不動産業・物品賃貸業、学術研究・専門・技術サービス業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、複合サービス事業、サービス業(他に分類されないもの)、公務(他に分類されるものを除く)





瑞穂市の花 アジサイ